

令和 8 年度（2026 年度）グローバル感染症研究センター 研究集会公募要項

令和 7 年（2025 年）12 月 10 日
大分大学グローバル感染症研究センター

大分大学グローバル感染症研究センターは、感染症に関する全学的な研究力強化を戦略的に推進し、本学ひいては我が国の感染症研究基盤の強化・充実に資することを目的として、令和 3 年 10 月に全国共同利用研究施設として設置されました。

本センターでは、国内外の研究機関と連携しながら、病原微生物による感染病態の解析やゲノム解析、マイクロバイオーーム研究、さらに本学が強みとする病原体や感染症に関する基礎研究から臨床までの一連の領域をシームレスに連携させることにより、感染症に関する国際的かつ地域中核での研究プラットフォームの構築を目指しており、本センターの研究目的の趣旨に沿うべく、研究集会課題を公募します。

1. 募集内容

グローバルな感染症研究に係る課題への考察や提言、本センターの教員とこれまで行ってきた研究課題の総括及び新しい共同研究課題の企画に資する研究討論集会で、本センターの教員と共同で令和 8 年度（2026 年度）中に開催するシンポジウム、研究集会、ワークショップ等を募集します。開催場所は国内外を問わず、他の学会等との共催も可能です。原則、対面方式或いはハイブリッド形式による研究集会等を対象とし、ポスター、看板、要旨集等に研究集会等の主催又は共催が本センターである旨を明示することを条件とします。

※集会開催及び予算執行期間：採択日～令和 9 年（2027 年）2 月末日

2. 研究集会実施期間

〔前期募集〕概ね令和 8 年（2026 年）5 月 1 日から令和 8 年（2026 年）9 月末日までに実施するもの

〔後期募集〕概ね令和 8 年（2026 年）10 月 1 日から令和 9 年（2027 年）2 月末日までに実施するもの（※）

（※）原則として上記期間内としますが、他の学会と同時開催する研究集会等で、当該学会がこの期間を超えて開催するものはこの限りではありませんので事前に御相談ください。

3. 申請資格者

国内外の大学教員、その他研究機関に所属する研究者、これらと同等の研究能力を有すると認める者で研究集会のテーマに関する研究および関連領域の研究に従事している常勤職員とします。

4. 申請上限額

一集会あたり 30 万円を上限とします。また、全体計画の一部を本経費で実施する場合は、必ず補完する経費の出处を申請書に明記してください。

5. 申請方法

研究集会の目的及び計画、その他申請に必要な事項について、本センターの担当教員と事前に協議の上、（様式 A）研究集会申請書を作成願います。

提出にあたっては、PDF ファイルに変換したものを添付の上、メールにて下記提出先に送付ください。

担当より受領確認を差し上げますので、返信を御確認ください。

【申請書提出・問合せ先】

大分大学グローバル感染症研究センター

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ケ丘 1 丁目 1 番地

E-mail: glocal@oita-u.ac.jp Tel: 097-586-5444

当センターホームページ: <https://www.oita-glocal.jp/>

6. 申請書提出期限

〔前期募集〕 令和 8 年（2026 年）3 月 13 日（金）17：00 必着

〔後期募集〕 令和 8 年（2026 年）8 月 17 日（月）17：00 必着

7. 審査

本センター運営委員会の議を経て、センター長が採否を決定し、前期は 4 月上旬、後期は 9 月下旬頃、申請者に通知する予定です。なお、審査においては、応募状況や研究集会等の性質等、個々の計画への適切な配分額を審査し、採択額を決定するため、採択額が申請額より減額となる場合があります。

8. 研究集会報告書

申請者は、研究集会等終了後 2 週間以内に（様式 B）「研究集会報告書」を本センターに提出してください。併せて、ポスターや要旨集を一部提出してください。

9. 研究集会での謝辞

開催する研究集会等のポスター、プログラム集、ホームページには本経費の支援による旨を必ず記載してください。

【和文】例 1. 本研究集会は大分大学グローバル感染症研究センターの支援により行った。
(#####)

【英文】例 1. This workshop was supported by the Research Meeting program of the Oita Global and Local Infectious Diseases Research Center, Oita University (#####)

注) #には採択通知に記載の課題番号を記入して下さい。

なお、成果についてはメール等で御連絡いただくとともに、ポスター、要旨集等を一部提出して下さい。

提出いただいた成果については、センター発行の年報、ホームページ等に掲載するほか、マスメディア等での広報を行う場合があります。広報に当たっては、事前に情報公開の可否について照会したうえで調整させていただきます。

10. 知的財産の取扱いについて

本研究集会の実施により生じた知的財産権の取扱いは、本学関連規程に準じた取扱いをいたします。

11. 情報開示

受理した申請書は、外部から情報開示を求められた場合、個人の特定が可能な情報を除き、開示することがあります。研究遂行上、開示されたくない箇所（独創性を含む記載等）はアンダーライン等でマークして、申請書の余白にその旨記してください。開示時に考慮します。

12. 個人情報等

本募集に関して取得した個人情報等については、国立大学法人大分大学の個人情報保護ポリシー等に準拠し、その保護に努めます。プライバシーポリシーの内容は、大分大学のウェブページ (<https://www.oita-u.ac.jp/13joho/kojin-policy.html>) を御覧ください。

13. その他

本公募の実施については、本学の令和 8 年度予算の成立を前提としています。予算の状況により、内容に変更があり得ることを予め御承知おきください。

本センター教員の研究分野・研究活動等と連絡先

教員氏名	研究分野・研究テーマ・研究内容等
<p>西園 晃 八尋 隆明 君付 和範</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: a24zono@oita-u.ac.jp (西園) takaaki-816@oita-u.ac.jp (八尋) k-kimitsuki@oita-u.ac.jp (君付)</p>	<p>研究分野：ウイルス学、感染免疫学、渡航医学</p> <p>研究テーマ：新興・再興ウイルス感染 特に狂犬病に関する総合的研究</p> <p>キーワード：狂犬病（病原性発現機構、宿主免疫応答の解析）、顧みられない熱帯病（NTDs）、渡航医学、狂犬病、神経向性ウイルス感染症</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1）狂犬病ウイルス、重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）など、ヒトと動物共通の新興・再興感染症ウイルスを中心とした診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査を実施している。野外株狂犬病ウイルスを用いた感染実験を行える国内ほぼ唯一の施設であり、特に <i>in vivo</i> イメージングによる中枢神経系における病原性発現機構の解析、感染時の宿主免疫応答に関する研究をライトシート蛍光顕微鏡を用いて行っている。</p> <p>2）海外渡航医療に関する臨床研究や新型コロナウイルス（COVID-19）の血清疫学調査を主とする臨床的研究も実施している。</p>
<p>山岡 吉生 松本 昂</p> <p>TEL: 097-586-5742</p> <p>E-mail: yyamaoka@oita-u.ac.jp (山岡) tmatsumoto9@oita-u.ac.jp (松本)</p>	<p>研究分野：消化管感染症、分子疫学</p> <p>研究テーマ：ピロリ菌感染症</p> <p>キーワード：薬剤耐性菌、ピロリ菌ゲノム解析、消化管細菌叢ゲノム解析</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）などの病原性細菌には、よく知られた病原因子や薬剤耐性因子が存在しているが、未だ判明していない病原因子や薬剤耐性因子も存在している。これらを解明するためには、次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析が必要で、本学では、バクテリアゲノムワイド関連解析（GWAS）、さらには遺伝子欠損株作出などによる機能解析を行っている。また、現在世界約 30 か国から集めた胃粘膜検体やピロリ菌を保有しており、胃内の細菌叢の遺伝子の地域による違いがどのように病原性などに関与しているかを研究している。</p>

<p>衛藤 剛</p> <p>TEL: 097-586-5843</p> <p>E-mail: teto@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：ウイルス癌治療応用工学、消化器外科、低侵襲治療</p> <p>研究テーマ：①制限増殖型ウイルスを用いた新規がん診断・治療開発、②腸内細菌叢と発がん・がん治療、③抗菌薬耐性ヘリコバクターピロリ菌に対する光線治療の開発</p> <p>キーワード：制限増殖型ウイルス、腸内細菌叢、抗菌薬耐性ヘリコバクターピロリ菌、光線治療、低侵襲治療</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 制限増殖型ウイルスはがん細胞で選択的に増殖し細胞溶解を引き起こす特徴があり、これまで主に消化器がんに対して制限増殖型ウイルス（レオウイルス）の抗腫瘍効果を研究してきた。一方、生体内での抗腫瘍効果、増殖安定性および有害事象の検討が課題であり、臨床応用に向けた研究開発を行っている。</p> <p>2) 腸内細菌叢の病態解明により、宿主の腫瘍免疫や発がんそのものを制御する可能性についての研究を行う。</p> <p>3) ヘリコバクターピロリ菌に対しては抗菌薬耐性菌の出現が世界的にも喫緊の課題である。耐性菌を含めたピロリ菌の除菌を目的とした新しい光線療法を開発する。</p>
<p>三室 仁美 三好 智博</p> <p>TEL: 097-586-5630</p> <p>E-mail: mimuro@oita-u.ac.jp (三室) miyoshit@oita-u.ac.jp (三好)</p>	<p>研究分野：細菌感染生物学</p> <p>研究テーマ：粘膜感染病原細菌の感染機構解明</p> <p>キーワード：ピロリ菌、赤痢菌、口腔内細菌、消化管病原細菌、病原性発現機構、宿主応答、薬剤耐性、VBNC</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>ピロリ菌や腸管病原性大腸菌などの消化管感染病原細菌に関し、感染から発症までの間に菌体因子と相互作用する宿主細胞群や宿主因子群の全容の解明に取り組んでいる。動物感染モデルとシングルセル解析設備、ゲノム解析を利用した、病原細菌感染の病態制御に関わる細胞群やncRNA、タンパク質、糖鎖、脂質等因子群の同定、および検査法・治療法開発を実施している。さらに、消化管粘膜感染病原細菌の薬剤耐性菌対策に関連研究、Viable but not culturable (VBNC)に関する研究、病原細菌のフェージに関する研究、病原細菌の感染成立における常在細菌叢の役割を解明する研究を実施している。</p>

<p>河本 聡志</p> <p>TEL: 097-586-5455</p> <p>E-mail: satoshik@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：ウイルス学、分子疫学</p> <p>研究テーマ：ロタウイルス、下痢症ウイルス、新興・再興感染症</p> <p>キーワード：リバーシジェネティクス、増殖・病原性発現機構、ワクチン・ベクター、次世代シーケンサー、ワンヘルス</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ロタウイルスのリバーシジェネティクス系を用いた解析（増殖・病原性の基礎的研究、ワクチン・ベクター開発）</p> <p>2) ウイルスの分子疫学（分子疫学研究による流行株の性状解析）</p> <p>3) 分子生物学的／ウイルス学的手法に基づく新興・再興感染症の研究</p>
<p>杉本 光繁</p> <p>TEL: 097-586-5401</p> <p>E-mail: sugimo@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：消化管感染症、酸関連疾患、臨床薬理学、消化器内視鏡学</p> <p>研究テーマ：①ヘリコバクターピロリ個別化除菌治療 ②non-Helicobacter pylori Helicobacter 関連研究</p> <p>キーワード：薬剤耐性菌、NHPH、CYP2C19 遺伝子多型</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ヘリコバクターピロリ個別化除菌治療</p> <p>除菌治療には薬剤耐性や薬剤の代謝酵素など種々の因子が関連しているため、関連因子を考慮した最適な個別化治療法の開発に取り組んでいる。</p> <p>2) non-Helicobacter pylori Helicobacter 関連研究</p> <p>ヘリコバクターピロリ以外にも胃内に感染する細菌が知られるようになり、MALT リンパ腫への関与が示唆されている。感染診断法の確立を目指すとともに、日本のみならず諸外国での疫学研究も計画している。</p>

<p>後藤 孔郎</p> <p>TEL: 097-586-5444</p> <p>E-mail: gotokoro@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：神経内分泌学、分子生物学</p> <p>研究テーマ：腸内細菌叢の変化と疾患発症との関連</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 腸内細菌から合成される lipopolysaccharide (LPS) が腸管内炎症を引き起こすことで腸管バリア機能が低下し、腸管内の LPS が腸管外に漏出することによって増加する血中の LPS が全身に炎症性変化をもたらす。このような炎症と様々な疾患の発症との関与について検討している。</p> <p>2) 腸内細菌叢から合成される二次代謝産物と疾患発症・進展との関連について検討している。例えば、二次性代謝産物の 1 つである短鎖脂肪酸は、腸管内に作用して腸管バリア機能を改善させることが明らかになっている。このような二次性代謝産物と様々な疾患との関連のなかで、腸内細菌叢の重要性について検討している。</p>
<p>宮原 麗子</p> <p>TEL: 097-586-6235</p> <p>E-mail: rmiyahara@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：感染症疫学、国際保健、公衆衛生</p> <p>研究テーマ：感染症の感染伝播や重症化リスクに関する疫学研究</p> <p>キーワード：感染症疫学、結核菌、デング熱、新興再興感染症、感染伝播、分子疫学、公衆衛生</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 疫学・臨床情報に宿主および病原体の遺伝子情報を統合した結核患者・接触者のコホート研究を構築し、結核菌感染症の感染伝播および重症化リスクを明らかにする。</p> <p>2) デング熱ウイルス検査の診断精度と臨床診断との一致性を評価する。</p> <p>3) 海外における感染症サーベイランスの実態を調査する。</p>
<p>内田 宅郎</p> <p>TEL: 097-586-6193</p> <p>E-mail: tuchida@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：肝臓学、ウイルス性肝炎</p> <p>研究テーマ：肝疾患の病態解明</p> <p>キーワード：肝炎、肝細胞癌、HBV、HCV、非アルコール性脂肪性肝疾患、NAFLD、NASH、肝硬変</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>肝炎ウイルスの感染～肝炎、肝癌発生に関わるウイルス因子と宿主因子の解明を目指し、動物モデルや培養技術を利用して HBV 感染が肝細胞に与える影響の解析やゲノム編集を用いた肝疾患モデルの創出を行う。また、臨床データやサンプルを用いた研究と基礎研究の融合を図り、肝疾患の病態解明および治療アプローチの開発、バイオマーカーの探索を行う。</p>

<p>カーン シャキル</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: sakirul@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野： ウイルス学、感染症疫学、神経感染症学</p> <p>研究テーマ： 新興・再興ウイルス感染症 (ラブドウイルス、フラビウイルス、新型コロナウイルス等)</p> <p>キーワード： 分子疫学、ウイルス性脳炎、既存薬再開発、ワンヘルス</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ラブドウイルス(狂犬病ウイルス・大分ウイルス 296/1972)の分子病態に関する研究</p> <p>2) SARS-CoV-2 感染患者におけるデング熱重症化メカニズムに関する基礎・臨床的研究</p> <p>3) ウイルス感染症に対する抗ウイルス薬/免疫調節物質を用いたドラッグ・リパーポーシング法/治療法に関する前臨床・臨床的研究</p>
<p>平松 和史</p> <p>TEL: 097-586-5406</p> <p>E-mail: hiramats@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野： 感染症内科学、感染制御学、呼吸器感染症内科学</p> <p>研究テーマ： 緑膿菌感染症、薬剤耐性菌感染症</p> <p>キーワード： 薬剤耐性菌、緑膿菌、院内感染症、抗菌薬に依存しない感染症治療</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 多剤耐性緑膿菌やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌、バンコマイシン耐性腸球菌など各種薬剤耐性菌の耐性機序や薬剤耐性獲得機構を明らかにする研究を実施している。</p> <p>2) 病院内での伝播経路や環境、動物などでの耐性菌の広がりを、分子生物学的技法を用いて検討している。</p> <p>3) 薬剤耐性菌に対する新しい治療法、治療薬の開発や抗菌薬に依存しない感染症の治療法や予防法に関する検討を行っている。</p>

<p>上村 尚人</p> <p>TEL: 097-586-5952</p> <p>E-mail: uemura@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：臨床薬理学および薬物治療薬、臨床薬効評価、早期臨床開発</p> <p>研究テーマ：感染症を含む難治性疾患の新規治療薬、ワクチンの研究開発</p> <p>キーワード：ウイルス感染症、顧みられない熱帯病（NTDs）、トランスレーショナルサイエンス、ワクチン、抗ウイルス薬、非臨床試験、臨床開発</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1）新興・再興感染症、特に新型コロナウイルスやインフルエンザを含む病原性 RNA ウイルスに対して有効な抗ウイルス薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。</p> <p>2）狂犬病をはじめとした、顧みられない熱帯病（neglected tropical diseases: NTDs）治療薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。</p>
<p>松岡 茂</p> <p>TEL: 097-586-5952</p> <p>E-mail: s-matsuoka@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：創薬化学</p> <p>研究テーマ：新規低分子抗ウイルス薬の開発研究、画像認識 AI の医薬品分子設計への応用</p> <p>キーワード：低分子、抗ウイルス薬、化合物ライブラリ、分子設計</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1）幅広いウイルス種に有効な新しい作用機序を持つ抗ウイルス薬の研究開発を実施している。</p> <p>2）新規画像解析法を応用した、生体高分子局所構造の低分子模倣や、低分子の骨格変換の技術開発研究を実施している。</p> <p>3）従来の低分子抗ウイルス薬（核酸誘導体など）とは異なる分子骨格を持つ独自の化合物ライブラリ分子を提供する。</p>

<p>緒方 正男</p> <p>TEL: 097-586-6275</p> <p>E-mail: mogata@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：血液内科学、造血幹細胞移植、ウイルス感染症 研究テーマ：免疫不全患者におけるウイルス感染症の解明とその制御法の確立 キーワード：HHV-6 感染メカニズムの解明、免疫不全関連ウイルス感染症の克服</p> <hr/> <p>研究内容： 同種造血幹細胞移植などに伴う免疫不全は多種多様なウイルス感染症などの発症に関連する。その早期診断は困難であり、治療薬の選択も限られている。免疫不全患者における種々のウイルス感染症やトキソプラズマ感染症の診断や治療法の開発に取り組んでいる。特にヒトヘルペスウイルス 6 による脳炎の病態、及び治療・予防法の確立に繋がる研究を実施している。</p>
<p>小林 隆志 神山 長慶</p> <p>TEL: 097-586-5700</p> <p>E-mail: kansen@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：免疫学、シグナル伝達、寄生虫学、ウイルス学 研究テーマ：炎症の免疫制御機構、アルボウイルス、寄生虫に対する免疫応答 キーワード：宿主免疫応答、病原性因子と病原性発現機構、遺伝子組換えマウス、実験用病原体</p> <hr/> <p>研究内容： 蚊媒介性ウイルス（ジカウイルス、チクングニアウイルス）、腸内細菌（Citorobacter rodentium）、寄生虫（トキソプラズマ、リーシュマニア、アニサキス）を中心とした病原性微生物への感染により誘導される宿主免疫応答に焦点を当て、疾患が引き起こされる発生機序の解明に取り組んでいる。特に、免疫応答に関する遺伝子の変異マウスを用いた生体レベルでの感染免疫応答の解析に加え、分子細胞レベルでの解析も行い宿主の免疫応答を総合的に理解する。一方、病原性を規定する微生物側の因子の同定を試みることで、微生物の感染から病態発症に至る機序の解明も進める。</p>

<p>一二三 恵美</p> <p>TEL: 097-554-6003</p> <p>E-mail: e-hifumi@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：生命科学、 生物学、抗体工学</p> <p>研究テーマ：新規医薬品開発を目指した抗体酵素研究</p> <p>キーワード：抗体酵素、抗体鎖、抗ウイルス作用</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>近年の分子標的薬、中でも抗体医薬品の発展は目覚ましい。将来、抗体が酵素作用をもって抗原を分解できればさらなる高付加価値が生まれる。最近、抗体の超可変領域内に、ある変異を導入する事で抗体に酵素作用を持たせる新手法を見出した。この手法をベースにして、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの保存領域を標的として、感染能を消失させる抗体酵素の作製を進めている。これにより、ウイルスに変異が生じても適切に対応出来る新型医薬・予防薬の開発を行うと共に、本手法の更なる技術展開を図る。</p>
<p>小宮 幸作</p> <p>TEL: 097-586-5804</p> <p>E-mail: komiyakhl@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：呼吸器内科、呼吸器感染症</p> <p>研究テーマ：抗酸菌感染症、抗菌薬適正使用</p> <p>キーワード：肺結核及び非結核性抗酸菌症の病態・診断・治療、抗菌薬適正使用</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 世界的にも肺結核に罹患する世代に変化がみられており、それらを鑑みた肺結核の病態、さらには新たな診断および治療に関する研究を実施している。</p> <p>2) 非結核性抗酸菌症は近年増加傾向にあり、希少菌を含め感染拡大に関する機序は明らかにされていない。さらには、従来ヒトーヒト感染はしないとされていたものも、その可能性を示す報告が散見されている。非結核性抗酸菌感染における病態解明に関連する研究を実施している。</p>

<p>伊波 英克</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: hiha@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：分子疫学・分子腫瘍学</p> <p>研究テーマ：HTLV-1/STLV の分子疫学調査(特にマレーシアを中心とする東南アジア)。成人 T 細胞白血病(ATL)の新規診療技術開発。</p> <p>キーワード：HTLV-1/STLV-1 分子疫学的・分子進化学的解析。</p> <p>ATL 発症危険度、バイオマーカー、分子標的治療薬</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ヒト (HTLV-1)/霊長類 (STLV) レトロウイルスの分子疫学調査。特に東南アジア島嶼域とオーストラリアに偏在する HTLV-1-C 亜種と類縁 STLV の疫学調査。</p> <p>2) ヒトレトロウイルス (HTLV-1) の感染で発症する難治性の血液腫瘍成人 T 細胞白血病 T 細胞白血病 (ATL) の診療効果を改善する新規バイオマーカーの同定と分子標的薬を活用した診療技術開発。</p>
<p>内田 智久</p> <p>TEL: 097-586-5195</p> <p>E-mail: tomohisa@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：分子疫学</p> <p>研究テーマ：ピロリ菌感染症</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>アジアにおけるピロリ菌の分子疫学について、病理標本を用いた解析を行う。</p>

大分大学グローバル感染症研究センター研究集会費の取扱いについて

1. 所要経費の取扱い

- (1) 本研究集会費は、旅費、会場借上げ費、印刷費、その他消耗品等の研究集会運営に直接必要な諸経費について、予算の範囲内において配分額を決定します。
- (2) 研究集会に必要な経費は、本センターから支出します。

2. 支出できる範囲

■旅費

旅費は、研究集会に参加するための交通費及び滞在費を国立大学法人大分大学旅費程に基づき算出し、精算払（銀行振込）を原則とします。本経費で年度を超える出張はできません。

■会議費等

研究集会を開催するために直接必要な会場借上げ費、印刷費、その他消耗品を計上することができます。なお、会場借上げ費については、飲食費補助は計上できません。また、講師謝金も計上できません。

3. 検収権限の委託について

本研究集会費で購入する消耗品等を、申請者所属機関に直接納品するために、本学の規程に定める検収権限の委託の手続が必要となります。（※別紙 2（研究集会費執行手続の流れ）をご確認ください。検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続に関する連絡をさせていただきますので、（経理様式 1）「検収権限委託に係る連絡票」により貴機関の検収御担当部局をお知らせくださるようお願いいたします。）

なお、貴機関の検収体制確認の結果、検収権限の委託ができない場合は、その旨御連絡いたします

採択後、速やかな研究開始・経費執行を行うため、申請者所属機関の検収体制について事前の確認をお願いいたします。

4. 研究集会費執行の流れ

本研究集会費については、申請者所属機関への予算配分（配分先機関で予算執行すること）を想定していません。そのため、以下の流れで執行していただくこととなります。 ※別紙 2（研究集会費執行手続の流れ）も併せてご確認ください。

例) 消耗品の購入

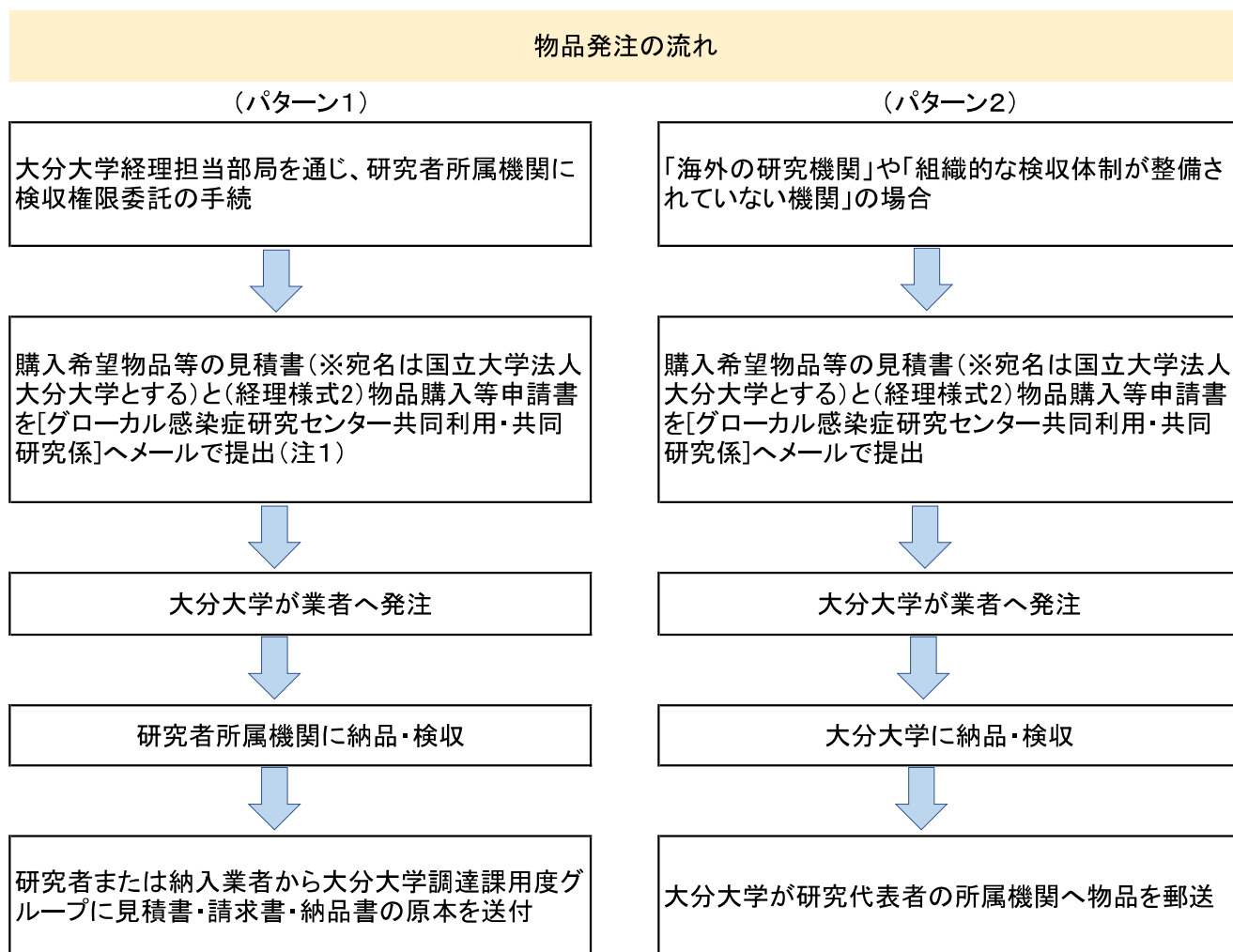
- 1) 購入予定物品の（経理様式 2）「物品購入等申請書」と見積書を、本センターへお送りください。購入にあたっては、納品までに時間がかかる場合もありますので、日程に余裕をもって御連絡ください。（送付先メールアドレス：glocal@oita-u.ac.jp）
- 2) 本学調達課用度グループから業者に発注を行います。
- 3) 指定の場所に納品がありましたら、各機関で定める手続に沿って、検収をお願いします。なお、各機関での検収にあたっては、あらかじめ手続（検収権限の委託）を経ておく必要があります。
- 4) 研究者または納入業者から本学調達課用度グループに、見積書・納品書・請求書の原本を郵送にてお送りください。
※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、見積書・納品書（検収印を押印したもの）・請求書の原本の三点を、本学調達課用度グループに、郵送にて送付してください。
- 5) 本学から納入業者へ支払いを行います。（納入月の翌月払）

※原則として令和 9 年（2027 年）2 月末日までに執行してください。

【見積書・納品書・請求書の提出先】

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1 丁目 1 番地
大分大学財務部調達課用度グループ

【大分大学グローバル感染症研究センター研究集会費 執行手続の流れ】



注1) (経理様式2) 物品購入等申請書を見積書とともに**納品希望日の7営業日前**までに提出してください。

※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、大分大学財務部調達課用度グループへ①見積書、②納品書(検収印を押印したもの)、③請求書の原本の3点を郵送にてお送りください。

※円滑な研究実施のために、検収権限委託手続への御協力をお願いいたします。

出張手続の流れ

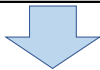
(経理様式3)出張旅費申請書及び宿泊の予約明細等(食事の有無等が分かるもの)を
〔グローバル感染症研究センター 共同利用・共同研究係〕へメールで提出



大分大学で旅行依頼書を作成



研究者等が出張



出張の際、出張者は旅費の支払いに必要な書類を大分大学に提出



大分大学が出張者に旅費支払い(口座振込)

【メール送付先: glocal@oita-u.ac.jp】

【出張前】

①(経理様式3)「出張旅費申請書」を、出発日の**7営業日前までに**、グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係へ提出してください。

【出張当日】

②旅費精算のため、下記書類等を提出してください。

1) 航空機利用の場合(パック旅行を含む)、航空機に搭乗したことが証明できるもの
(搭乗券、半券、保安検査場通過の際に発行されるレシート状のもの、航空会社が発行する搭乗証明書のいずれか1つ。ただし、モバイル搭乗券は無効)

2) 領収書または支払を証明する資料

※宿泊費については、令和7年11月1日出発分より上限額ありの実費支給方式へ移行しましたので、
宿泊に係る領収書(金額と内訳が確認できるもの)を提出してください。

3) 口座振込依頼書(押印済の本紙)

4) 研究集会当日に配布されたプログラム、参加証の写し等の資料

③本学作成の旅行依頼書に、印鑑またはサインをお願いいたします。